

タ ブ ラ ラ サ

Tabula rasa



梅光学院大学

図書館サポーター 広報誌 第25号

はじめに

この度は本誌を手にとっていただき誠にありがとうございます。第25号では、2020年度の活動の一部を掲載しています。世界的な新型コロナウイルスの流行により、学院でもオンライン授業が始まり異例の一年となりました。この冊子が、私たちの活動に興味を持っていただけるきっかけの一つになれば幸いです。

目次

- *はじめに・目次
- *図書館サポーターとは
- *ライブラリアン 13 世
- *2020 年度 活動紹介
- *年間スケジュール
- *4 年生より
- *あとがき

図書館サポーターとは

学生目線で図書館をより良くしていこうと活動する、梅光学院大学図書館のボランティア団体です。テーマに沿った本棚のコーナーを作り、POPをつくったり図書館に関わる様々なことに取り組んでいます。活動は年々変化し、新しいことに挑戦していくとともに、利用者一人一人が居心地の良い図書館だと感じていただけるよう日々努力しています。

理念

人と図書館を育てる

目標

図書館や大学の役に立つ
活動を通して成長を目指す
隣人を自分のように愛す
(マルコによる福音書 12章 31節より)

ライブラリアン 13世

梅光学院大学図書館公式
キャラクター
通称、ライちゃん。
地球から遠く離れたライ
ブラリアン星からやって
きた偉大なる王らしいが
詳細は不明。
本が好き。本を読む人が
好き。図書館が大好き。



オンライン部会＋Twitter 開設

大学での Teams を使ったオンライン授業開始に伴い、毎週行っていた図書館サポーターの部会の場をオンラインに移して実施しました。

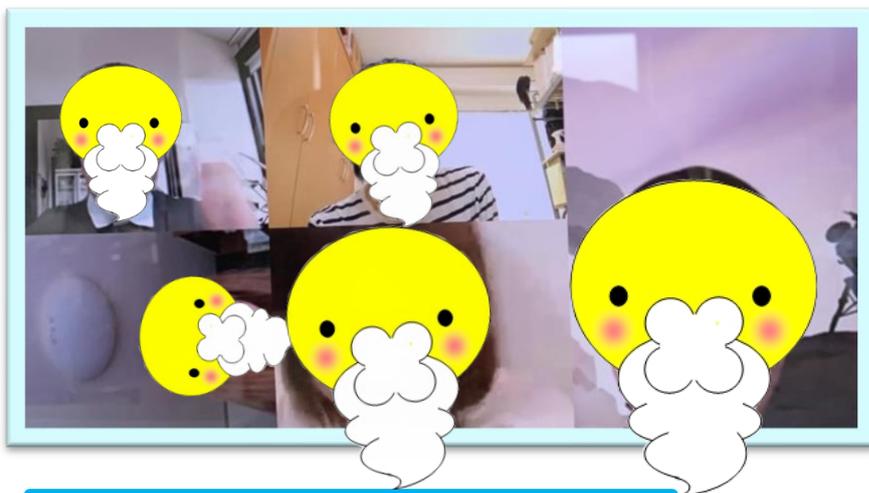
オンライン部会では、これまで交流の難しかった留学中のメンバーとも話すことができ、皆おたがいの近況を報告し合いました。

自粛期間で人との関りが少ない中、他の人のマイブームや読んだ本などを知ることで、日々を彩る楽しい時間になりました。

また、オンライン部会の開始と併せて、図書館サポーターの Twitter を開設しました。

図書館サポーターの活動を報告するアカウントとして、節目となるような活動をした際には、それを投稿して他大学の学生協働団体にも梅光学院大学図書館サポーターの活動を知ってもらえるようにと思い開設しました。

他大学の団体と交流する窓口がいままでなかったため、そういった場になればという思いもありました。



←実際のオンライン部会の様子(プライバシーに配慮して顔をライちゃんで隠しております。)



←Twitter はこちらを検索！

先生のオススメ本

2020年度は、新入生を始めとして学生と先生との交流が少なかったことから、先生のことを知るきっかけになればという理由で最初の活動として実施しました。

対面で集まれるメンバーで一つのPOPを作り上げ、新しい試みとして、大学に来ずとも見るができるように、図書館のホームページにアップすることで、夏休みやオンラインの期間でも先生の紹介した本を知ることができるようにしました。

【図書館の小窓】図書館サポーター活動開始 (2020/08/27)

2020.08.27

「図書館の小窓」第1回目は、図書館サポーターさんの活動紹介です。

コロナウイルス対応のため学校に来ることができなかった図書館サポーターですが、7月20日より、大学の許可をいただきサポーター活動を対面で行うことができようになりました。

部会で決まった結果、「先生のオススメ本」の活動を行うことに決定。部会委員の1年生の先生の小野先生にお願いすることになりました。先生は、毎日行われるオンライン礼拝での小野先生のお話を聞いて、ぜひ小野先生のオススメ本を知りたいと思ったそうです。

先生が先生にお願いに伺った、メールでやり取りして、実現にこぎつけました。

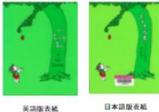
このような時に協力いただき、小野先生にはより感謝します。

いただいた書籍を元にポップを作るのは、図書館員小野さん。先生ももちろん協力して作り上げました。

もう登場です。コロナウイルスとの関係で学生がほとんど来れないので、図書館内の展示と併せてホームページの公開をすることになりました。

定着すべき1回目の記事はこちらどうぞ↓↓小野良美先生のオススメ本

小野良美先生のオススメ本
「The Giving Tree/Shel Silverstein著」



英語版表紙 日本語版表紙



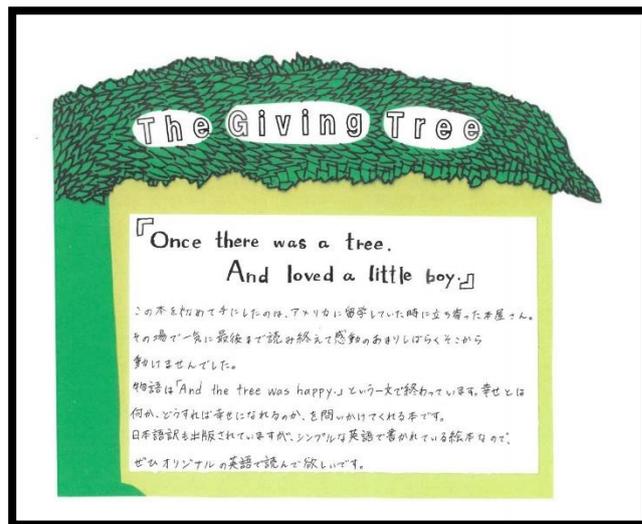
小野良美先生

小野良美先生の紹介文
この本を初めて手にしたのは、アメリカに留学していた時に立ち寄った本屋さん。その場で一気に書きためて読み終えて感動のあまりしばらくくもくがのめり込んでいた。物語は「And the tree was happy」という一文で終わっています。幸せとは何か、どうすれば幸せになれるのか、を問いかけてくれる本です。日本語版も出版されていますが、シンプルに英語で書かれている絵本なので、ぜひオリジナルの英語で読んでほしいです。

図書館サポーター手作りのポップ




↑ しっかりマスクもしています。
← 図書館で作業中！



↑ 図書館ホームページで見るとこんな感じになります。

第 10 回大学図書館学生協働交流

オンラインシンポジウム

2019 年度に島根大学で開催された第 9 回大学図書館学生協働交流シンポジウム。その次なる舞台として、新校舎 CLOSSLIGHT を活かして様々な準備を進めていた、梅光学院大学図書館サポーターは新型コロナウイルスの蔓延により、急遽オンラインシンポジウムとして開催することに決定しました。

「新しい繋がりで広がろう学生協働の輪」と題して、オンラインで行うという全く新しい試みに挑戦していくこととなりました。

第10回
大学図書館学生協働交流
オンラインシンポジウム

新しい繋がりで広がろう
学生協働の輪

2020.09.11 (日)
12:00 - 15:30

◎ 会場
各大学 (通信環境の良い場所)

◎ プログラム

12:00	-	受付
12:30	-	開会・挨拶
12:40	-	アイスブレイク
13:00	-	活動報告
14:30	-	休憩
14:50	-	質疑応答
15:30	-	閉会

公式サイト

<http://www.baiko.ac.jp/university/library/sympo2020>

主催：中国四国地区大学図書館協議会(主催：梅光学院大学図書館)
共催：山口県大学図書館協議会(予定)
後援：全国学生協働ワット実行委員会(図書館総合推進委員会)(予定)

← オンラインシンポジウム告知用ポスター

オンラインで行う上での最大の問題点は、様々な不具合に対応できるような準備が必要ということでした。安定した通信環境があっても、パソコンやシステムの不具合や、操作の不明などは切っても切れない問題でした。

そういった問題に対処するためのテストを近隣の大学図書館関係者の方々に協力していただいて、説明をしなければいけない点や、頻発しそうなミスなどを洗い出しました。

それと併せて進行の手順の見直しや練習を行い、どこが分かりづらいのか、どこでどれだけ時間を取ればいいのかなどの準備を進めていきました。

迎えた本番では、これまでの準備が実を結び 100 名を超える参加者の皆さまに最高の場を提供できました。

それぞれの大学が、コロナに負けず図書館を盛り上げる工夫がいっぱい詰まった企画を行っていることを知ることができて、オンラインシンポジウムは大成功を収めました。

当日の様子をまとめた映像が図書館ホームページからシンポジウムのバナーに行くことで見るすることができます。

当日の様子を映像で感じることができるのは、オンラインで開催したからこそです。

開催の様子

各大学それぞれの大学の通信環境の良い場所。大型画面で見ることのできるような場所に、三密を避けてお集まりいただきました。



[ダイジェストムービー／オープニング・学長挨拶・アイスブレイク]



第10回 大学町で協働交流
オンラインシンポジウム
2020.09.11
梅光学院大学



←サイトから動画もチェック！

LUCIS 祭 古本市

2020年度はコロナウイルスの影響で例年行っていたチュロスの販売ができなくなりました。

それを受けて食品ではなく古本を売るという方向で図書館サポーターは出店しました。

古本を先生方から集めて、過去に実施した際に残っていた古本も合わせて販売しました。

売り上げの一部を図書館サポーターとしてサマリア献金に寄付しました。↑

このように設営しました。↑



オンライン ABD (アクティブブックダイアログ)

第10回オンラインシンポジウムの後、島根大学の学生協働団体である図書館コンシェルジュさんに、シンポジウム内で発表されていたABDをぜひやってみたいとこちらからお声がけをしたところ、オンラインでもできるような形で企画していただきました。

ABDとは、複数人の参加者が一冊の本を分担して読んで、それぞれが読んだ内容を発表しあい、共有した本の内容について対話を行う、近未来型読書会のことです。

今回は「ケーキの切れない非行少年たち」という本を題材に進行していきました。

それぞれの大学で実際に本の一部を参加者に配布してそれを読み、まとめて、共有するという新鮮な体験をさせていただきました。

まとめたところに対して質問をする時間では、ABDの大切な要素である「対話」をしっかりとすることができたなと感じました。

また、実際の様子は本学ホームページと図書館コンシェルジュさんのブログをご参照ください。

島根大学附属図書館さんのブログ (左記 QR コード)

<https://shimadai-lib.hatenablog.jp/entry/2020/12/25/094835>

梅光学院大学図書館ホームページ (右記 QR コード)

<https://www.baiko.ac.jp/university/library/archives/25809>



本の福袋

2018年度に開催された第8回シンポジウムで、他大学の団体が発表されていた、「本の福袋」企画を自分たちでもしてみたいと思い、2020年度最後の企画として取り組みました。

「本の福袋」という企画は、サポーターが選んだ本を福袋に入れ、利用者が借りて実際に中身を見るまでどんな本が入っているか分からないという企画です。

自分で選んで本を借りていると、どうしてもジャンルの偏りが起きてしまいます。新しいジャンルに触れる機会も必然的に減ってしまいます。そういった問題を解消するのに「本の福袋」は最適だと思い実行しました。

サポーター1人につき1つの福袋を担当して、それぞれジャンルを決めて3冊ほどジャンルに沿って本を選び、袋につけるポップを作りました。

時期的にも年始ということもあり、福袋という形式がハマったのか、大変好評でした。



←
何が入っているか分からない！
ワクワク感が伝わってくる！
(袋の色も合わさって
どこか縁起が良さそう！)



年間スケジュール

2020

May

- オンライン部会
- Twitter 開設

July

- 対面活動再開

Aug.

- 先生のおススメ本展示

Sep.

- オンラインシンポジウム開催

Oct.

- 古本市のポスター等作成
- 部活勧誘会参加

Nov.

- LUCIS 祭 古本市開催

Dec.

- オンライン ABD 参加
- 「本の福袋」準備

2021

Jan.

- 「本の福袋」実施

4年生より

私にとって図書館サポーターへの入部は大きな挑戦の一つでした。

その挑戦から私は多くのことを得ることができました。そこで得たことは図書館サポーターを通じて関わった方々がいなければ得られなかったでしょう。

今まで触れていなかったジャンルの本、新しい出会い、得難い経験。全て素晴らしいものでした。得たものに対して貢献できたことはあまりにも少ないことが唯一の心残りです。もう少しで卒業してしまいますがここで築いた縁を大事にしていきたいです。

図書館関係者様、図書館サポーターの皆さん今までありがとうございました。

図書館サポーター会計 嶋本 輝生

図書館サポーターに入部してから数多くのことを経験させていただきました。特にグループとして活動する中で、周りの意見をまとめたり、方針を決めたりする役割を務めることが多く、それらの経験は今の私に強く活かしています。

3年間周りの人に助けられながら、成長し歩んできました。

図書館サポーターに関わる皆様に心からの感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

図書館サポーター部長 的場 深友

あとかき

ここまで Tabula rasa をご覧いただきありがとうございました。

作成しながら部長として歩んできた 1 年を振り返ると、かなり色んなことをしてきたのだなと改めて思いました。

昨年度は特に新型コロナウイルス流行の影響もあり、異例な 1 年ではありましたが、制限のあった中でも新しいことへのチャレンジや、柔軟な対応で進んでいくことができたと思います。

今後は図書館サポーターに限らず活動することが大変になっていくかと思いますが、それを乗り越えていける力が後に続く皆にあると信じています。

最後になりますが、図書館サポーターを支えてくださる全ての皆様に心より感謝を申し上げます。これからも図書館サポーターの活動を見守っていただければ幸いです。



梅光学院大学図書館サポーター広報誌「Tabula rasa」第 25 号
発行日：2021 年 10 月 13 日
発行：梅光学院大学図書館サポーター
編集：梅光学院大学図書館サポーター